

私幼 だより

vol.140

くり幼稚園

卷頭言

夏休みが終わり、子どもたちの声が園庭に響き渡っていることだと思います。預かり保育を行っているとはいえ、少しは気持ちに余裕が持てるような気がします。と言いながらも、今年の夏は暑く忙しい毎日でした。ご承知のように、「子ども・子育て支援新制度」の説明会やら会議で連日資料と“にらめっこ”で、大変な夏休みになりました。



さて、その新制度ですが、「当幼稚園は絶対に移行しない」とがんばる園長先生はともかく、右に行くべきか、左に行くべきか判断できないでいる園長先生が多く、様々な疑問を解決しないまま、10月の園児募集を迎えようとしております。各地区会の時も、新入園児の保護者にどう説明すればいいのかわからないので、資料を作ってほしいという要望が寄せられました。9月に入り、Q & A方式の「移行しない幼稚園版のパンフレット」を作成することになり、10月の園児募集に間に合わせるよう取り組んでいるところです。果たして、保護者の皆様に理解してもらえるのか、苦情に対応できるのか心配の連続が当分続きそうです。

宮私幼理事長 村山十五



Close・up 理事会

平成26年度宮私幼理事会の概要（4月～8月）

【第1回理事会】

日 時 平成26年4月14日(月) 午後2時～
場 所 宮私幼会議室
事

- (1) 第二たんぽぽ幼稚園の入会承認〔定款第6条〕について
- (2) 第二たんぽぽ幼稚園の退職手当資金給付事業への加入承認〔定款第45条〕について
- (3) 平成26年度(第22回)全日本私立幼稚園連合会東北地区私立幼稚園設置者・園長研修会(宮城大会)の開催について

報告事項

- ① 再開園の報告〈閑上わかば幼稚園→美田園わかば幼稚園〉H26.4.1～

その他の

- (1) 「みやぎ鎮魂の日」について
- (2) 「平成25年度事業実施報告書」の提出について
- (3) 「平成25年度地区運営に関する報告書」の提出について
- (4) 今後の日程について

【通常理事会】

日 時 平成26年5月14日(水) 午後1時～
場 所 宮私幼会議室
事

- (1) 推薦委員会報告関連について
 - ・施行規則の一部改正について
 - ・平成26・27年度役員改選(案)及び議決権の行使について
 - ・正副理事長の理事会による選定について
- (2) 平成26年度定時総会の議案について
 - 第1号議案 平成25年度(10月～3月)事業報告について
 - 第2号議案 平成25年度(10月～3月)一般会計・退職手当資金給付事業特別会計・受託事業決算報告並びに監査報告について
 - 第3号議案 役員改選について
- (3) 第1回定時総会の議長・議事録署名人及び司会者について
- (4) その他
 - ・公開保育コーディネーター養成講座について
 - ・宮城県私立幼稚園振興対策協議会の解散について

【平成26年度臨時理事会】

日 時 平成26年5月28日(水) 午後2時20分～2時30分
場 所 仙台市戦災復興記念館5階ロビー
議 定款第23条第2項による理事長、副理事長、常任理事の選定について

【平成26年度臨時理事会】

日 時 平成26年6月4日(水) 午後2時～
場 所 宮私幼会議室
事

- (1) 所属委員会の確認について
- (2) 正副委員長選任について
- (3) 各委員会協力委員の選任について
- (4) 教育振興大会の役割分担について
- (5) その他
 - ・宮城県子ども子育て会議委員の確認について

その他の

今後の日程について

【平成26年度臨時理事会】

日 時 平成26年7月16日(水) 午後2時～
場 所 宮私幼会議室
事

- (1) 地区別設置者・園長会議の日程及び内容について
- (2) 「養成校との懇談会」の報告
- (3) 就職ガイダンスについて
- (4) 園児募集の日程について
- (5) 「ようちえん白書」について
- (6) 子ども・子育て支援新制度について(要望)

報告事項

- (1) 遠藤事務局長退職・理事の辞任届について
- (2) PTA全国大会(9月3日(水))の割り当てについて
- (3) 免許状更新講習の担当理事について
- (4) 平成26年度「地区運営費・地区研修費・実技講習会の補助及び「実技講習会実施状況報告書」の提出について

その他

今後の日程について

事務局だより

○関係機関団体

- 5/9 幼稚園等新規採用教員研修(県総合教育センター)
- 5/16 仙私幼会・仙私幼設置者・園長研修会(旭ヶ丘市民センター)
〃 振興対策協議会監査会
- 5/29 宮城県子ども・子育て会議(宮城県行政庁舎)
- 6/2 宮私幼PTA連合会総会(仙台市民会館)
- 6/28 ソニー幼児教育支援プログラム最優秀園実践発表会(みどりの森幼稚園)
- 7/1 県新任研、10年研(県総合教育センター)
- 7/22 県新任研(県総合教育センター)
- 7/29 県次世代育成支援対策地域協議会(宮城県行政庁舎)
〃 子ども・子育て会議(宮城県行政庁舎)
- 8/4 幼稚園教育課程宮城県研究協議会(宮城県行政庁舎)
〃 県新任研、10年研(県総合教育センター)
- 8/8 仙私幼設置者・園長会議(旭ヶ丘市民センター)
- 8/11 県新任研(県総合教育センター)
- 8/20 県新任研、10年研(県総合教育センター)

○全日私幼連

- 5/8 理事会(東京)
- 5/21 定時総会(東京)
- 6/20 第22回東北地区私立幼稚園設置者・園長研修会(宮城大会)
(仙台ガーデンパレス)
- 6/21 第1回全日私幼連東北地区会(仙台ガーデンパレス)
- 6/23 第4回[地方版]子ども・子育て会議 対応研修会(東京私学会館)
- 8/4 東北地区団体長会議(岩手県)
- 8/9～10 免許状更新講習<第1回・必修>(仙台市戦災復興記念館)
- 8/24 免許状更新講習<第2回・選択>(仙台市戦災復興記念館)
- 8/30 免許状更新講習<第3回・選択>(仙台市戦災復興記念館)

○宮私幼のあゆみ

- 4/14 理事会
- 4/21 東北地区設置者・園長研修会(宮城大会)実行委員会
- 4/22 研究委員会
- 4/23 総務・給付委員会
- 5/9 推薦委員会
- 5/12 常任理事会・総務・給付委員会合同会議
- 5/14 監査会、理事会
- 5/19 常任理事会
- 5/22 研究委員会
- 5/28 第1回設置者・園長研修会(仙台市戦災復興記念館)
〃 第1回定時総会(仙台市戦災復興記念館)
- 6/2 研究委員会
- 6/4 理事会、東北地区設置者・園長研修会(宮城大会)実行委員会
- 6/11 総務・給付委員会
- 6/18 教育振興大会・PTA研修大会(東京エレクトロンホール宮城)
- 6/24 研究委員会、地区研修担当者連絡会議、教育研究発表大会研修担当者会議
- 6/25 子ども・子育て支援新制度に関する説明会(東京エレクトロンホール宮城)
- 7/7 養成校との懇談会(仙台ガーデンパレス)
- 7/8 研究委員会
- 7/9 総務・給付委員会
- 7/16 理事会、広報委員会
- 7/23 ファシリテーター養成講座(仙台市戦災復興記念館)
- 7/25 経営委員会
- 7/28 中堅教員研修会(日立システムズホール仙台)
- 7/29 10年経験教員研修会(東京エレクトロンホール宮城)
- 8/1～2 新任教員研修会(茂庭荘)
- 8/4 フォローアップ研修会(仙台市戦災復興記念館)
- 8/5 未満児保育研修会(仙台市戦災復興記念館)
- 8/8 仙台地区設置者・園長会議(旭ヶ丘市民センター)
- 8/11 名取・岩沼地区設置者・園長会議(岩沼市:岩沼南こども幼稚園)
- 8/19 仙南地区設置者・園長会議(柴田町:熊野幼稚園)
- 8/20 気仙沼・登米地区設置者・園長会議(南三陸町:南三陸ホテル観洋)
- 8/21 大崎地区設置者・園長会議(大崎市:レストラントスギヤマ)
- 8/22 石巻地区設置者・園長会議(石巻市:ひばり幼稚園)
- 8/25 塩釜地区設置者・園長会議(多賀城市:キャッスルプラザ多賀城)
- 8/27 総務・給付委員会

○慶弔

- 4/16 加藤芳男 氏(すがわら幼稚園 元園長)ご逝去
- 4/29 春の叙勲(瑞宝双光章)受賞 鎌田文惠 氏(茂庭幼稚園 設置者・園長)
- 6/21 佐々木龍樹 氏(木の実幼稚園 設置者・前園長)ご逝去
- 6/27 富田 博 氏(めるへんの森幼稚園 元園長)ご逝去

平成26年度設置者・園長研修会並びに第1回総会

日時：平成26年5月28日（水）午前11時～ 会場：仙台市戦災復興記念館

午前11時から、研修会として私学文書課木川田真理子氏より「子ども・子育て支援新制度について」、村山十五理事長より「認定こども園について」と題してご講演いただきました。木川田氏は5月26日に発表があった公定価格を中心に膨大な資料を使って説明されました。事前に寄せられた質問についてお答えいただき、また当日フロアからの質問にお答えいただきましたが、時間が足りませんでした。続いて村山理事長から新制度の様々な問題点を挙げられました。



午後1時からの総会に先立ち、鎌田文恵副理事長の開会の挨拶、「幼稚園賛歌」斉唱。村山十五理事長のあいさつでは、このたびの新三法のもと私立幼稚園が大変厳しい判断が求められているとの状況報告がありました。喜びとして春の叙勲で鎌田文恵先生が瑞宝双光章を受章されました。午前中、認定こども園絡みで研修がありましたが、情報や説明が足りません。これから6月20日の東北大会でも文科省から説明がありますし、誤りのないように情報を伝えしていくと述べられました。続いて、叙勲について鎌田文恵先生より御礼の言葉がありました。

来賓祝辞では、宮城県私学文書課千葉章課長から、東日本大震災から3年余り、一歩ずつ復興を進めているが、まだ多くの方が不便な生活を強いられています。幼稚園でも園児の精神的なケアが必要で、県としてもできる限りの支援をしていきたい。午前中子ども子育て支援新制度について説明させていただきました。本格的なスタートまで1年、財源の確保など不安材料があるが、不明な点も多く私達も歯がゆい思いです。今まで幼稚園は市町村と付き合いが少なかったが、新制度はそこが主体となるので、情報を共有することが大切で、不明な点があったら、市町村、県私学文書課・子育て支援課にお問い合わせ下さい。我々でお答えできないものは国に照会してお答えします。今後とも貴連合会と共に連携を深め幼児教育の振興に努めて参りますので、ご支援ご協力を賜りますとの挨拶を頂きました。

宮私幼PTA連渥美巣会長より、日頃宮城県の大事な幼児教育の振興のために、宮私幼と一体となつての県知事、県議会議長への陳情が予算要求に現れています。予算面では学法、それ以外でもそれぞれ一園児当たり1%アップしたが、まだ全国的に低い。来年度の新しい制度について、設置者にとってのメ

リット、デメリット、保護者の負担増減等について簡単に分かりやすい書面が欲しい。現状では抽象的な話が多く、なかなか理解できないというのが議会の立場です。互いに情報を共有しながらよりよい方向に進んでいくことを願っています。東日本大震災から3年が過ぎました。宮城県では10年間で経済復興を成し遂げる計画を立て、復旧期3年、再生期4年、発展期3年と区切っています。政権が代わって25兆円まで膨らんだが、なかなか進まない。26年度は再生期4年のスタートの年、県議会もそれらをサポートしていきたい。全国でも下位の補助金を、今後とも宮城の将来を担う子どもたちのために私達も一緒に進めていきたいと力強いお言葉をいただきました。

議事に入る前に、議長として東岡幼稚園園長清野英俊氏、尚絅学院大学附属



幼稚園園長岩倉政城氏が指名され、議事録署名人としてエコールノワール幼稚園副園長佐々木拓真氏、利府おおぞら幼稚園園長伊藤正則氏が選出されました。定足数186名中出席者113名、委任状61名で過半数を超えたので成立し、議事に入りました。

第一号議案、第二号議案では新法人設立以降の平成25年10月1日から3月31までの事業報告、一般会計、退職手当資金特別会計、受託事業決算報告、監査報告について関連があるので一括審議され、承認されました。また、役員改選では、新定款により役員一人一人の信任の必要性から投票用紙が事前に配られ、選出された立会人のもと投票・開票が行われ圧倒的多数をもって新役員が承認されました。休憩時間を利用して新役員により三役として村山理事長、鎌田文恵・佐藤宏郎副理事長の留任を決めました。

その後、「花のおさなご」を斉唱し、佐藤宏郎副理事長の閉会の言葉で一切が終了しました。



平成26年度宮城県私立幼稚園教育振興大会 第43回宮城県私立幼稚園P T A研修大会

大会スローガン：「幼児教育の再生に向けて」～子育ては、親と地域と幼稚園～

日時：平成26年6月18日 午前10時30分～12時20分／会場：東京エレクトロンホール宮城

第1部 宮城県私立幼稚園教育振興大会

去る6月18日、東京エレクトロンホール宮城において、宮私幼教育振興大会並びに宮私幼P T A研修大会が開催され、県・県議会・私立学校関係のご来賓の方々をお招きし、大勢の保護者並びに幼稚園教員が集いました。

振興大会では冒頭のあいさつで、村山十五宮私幼理事長は保育料無償化運動が第三子全額、第二子半額の保育料補助の成果を得たことを報告し、さらに今後認定こども園をめぐっての動向を見守っていかなければならぬと話されました。

引き続いて宮私幼P T A連の渥美巖会長があいさつに立ち、震災後復興途上の中、被災幼稚園や保護者への補助金に感謝の意を表わされるとともに、少子化の中にあって幼児教育の重要性に鑑み、すべての子どもに良い教育を提供できるよう親や教師の学びと経済的負担軽減の重要性を訴えました。さらに、子ども子育て支援法に基づく新制度の導入にあたって各方面一体となって取り組んでいきたいと述べられました。

来賓として出席された村井嘉浩宮城県知事の代理、三浦秀一副知事が祝辞を述べ、震災からの復旧復興に新たな取り組みを行っていく一方で、不登校への対応や心のケアが課題であり教育環境の確保の一環として減免施策が重要であると語られました。また幼児教育における「量の拡充・質の向上」にむけた新制度移行への市町村の取り組みに、県として支援していきたいと述べられました。

引き続いて祝辞を述べた宮城県議会議長の安藤俊威氏も、被災した子どもの3割にP T S Dの症状がある中、心のケアが喫緊の課題であり、社会全体で支えることが重要であると述べ、さらに「量の拡充・質の向上」を目指す子ども子育て支援新制度に向けて、親と地域と幼稚園の連携が重要であると語られました。

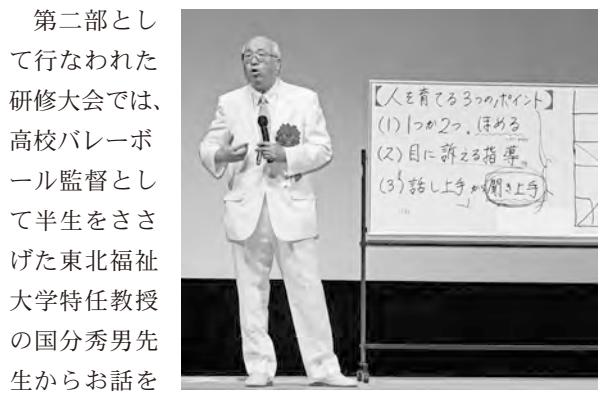
その後大会宣言を、宮私幼の末屋保広理事並びに宮私幼P T Aの鈴木友貴副会長が読み上げ、参加者一同



が拍手を持って採択しました。同宣言では幼児の「生きる力」の基礎を育み、親の「学び」と「子育て」を

支えるため、幼稚園の安定的経営と保護者の経済的負担軽減、特に預り保育へ補助金の増額を求めました。

第2部 宮私幼P T A研修大会



第二部として行なわれた研修大会では、高校バレーボール監督として半生をささげた東北福祉大学特任教授の国分秀男先生からお話をうかがう機会に恵まれました。「夢を見て、夢を追いかけ、夢を食う『私の子育て論』」と題して行われた国分先生の講演では、「人を育てる三つのポイント」として、(1)言ることは具体的に一つ二つ、そしてほめること、(2)目に訴えて指導すること、(3)話し上手から聞き上手になることが示されました。幼い頃、発明工夫展覧会で入選しお母さまが抱きしめて喜んでくれたことなど、ほめることの大切さをご自分の体験からお話しいただきました。ボールを「角に打ちなさい」と教えるのではなく、色のついた布をコートに敷いて、「赤い布に打ちなさい」と具体的に指導するコツや、飛行機のポスターで高校生部員の意欲を掻き立てたご経験など、バレーボールの指導についても大変わかりやすくご披露いただき、決して強くはなかったバレーボール部を全国優勝にまで導いた指導の秘訣に納得させられました。「人はみな自己主張を始めた」と、当時の時代の空気を読み、語る指導から聞く指導へと切り替え、考える力を、養い力を合わせることの大切さを国分先生自身が学んでいかれたとのことで、人を育てるには自分を育てることが大切だという謙虚な姿勢を、氏自ら身を持って私たちに教えてくださいました。自分を育てるには、(1)良い話を聞いてできることを実行する、(2)良い本を読んで、「なるほど」と思ったことを実行する、(3)音楽や絵画など良いものに触れる、という三つの方法があるということでした。「目に訴える指導」ということで、ご自身純白のスーツを身にまとい、動画やスライド、はては愛唱歌の御披露と、エンターテイメントにも優れた工夫があり、わたしたちを楽しませ、深い感動を与えてくださいました。

(早坂文彦)

新理事長・新園長紹介

楽しく遊び、明日も通いたくなる幼稚園に

たんぽぽ・第二たんぽぽ幼稚園 園長 伊藤 誠

「ぼく、今日泣かないで幼稚園に来たよ」と笑顔で話す3歳児。

「チャーハン作ったから食べてね」と砂場で楽しく遊んでいる4歳児。

「逆上がりをやってみるから見て」と鉄棒で元気よく遊んでいる5歳児。

これらは、私が勤務しているたんぽぽ幼稚園・第二たんぽぽ幼稚園での光景です。このように可愛いしぐさや言葉を話し、楽しく元気に過ごしている園児たちを見ていると私も嬉しく、優しい気持ちになります。

さて、私は、学校法人柴田学園が平成26年度に第二たんぽぽ幼稚園を新設するのに伴い、たんぽぽ幼稚園と兼務で園長就任を要請され、4月から二つの幼稚園を往来しながら勤務しています。両園ともスクールバスを運行し、町内全域から園児が通います。全園児が登園するまで時間がかかるので、園児にとって大事な学習となる『遊び』の時間をいかに確保し、充実した園生活を送らせていくかを職員皆で工夫し、実践しているところです。

「子どもが楽しく遊び、明日も通いたくなる」「保護者が安心して子どもを通わせたいと思う」「教職員が情熱と使命感をもち、協働して子どもの教育を行う」「地域から理解と協力をされ、活気ある」などのような幼稚園を目指し、経営を推進していくかと思っております。



大震災を乗り越えて

美田園わかば幼稚園 園長 佐竹 悅子

開園から5か月が過ぎ、やつと子ども達も職員も建物の動線が身についてきて、それぞれに落ち着いた活動が見られるようになりました。

美田園わかば幼稚園は、東日本大震災に於いて全壊いたしました「閑上わかば幼稚園」の仮設園舎として美田園に建設され、震災も加わって急速に開発が進んだ住宅地の真ん中にあります。たくさんの集合住宅、次々と新築される家々から子ども達の元気な声が聞こえてくるところです。

震災当時、私は公立閑上保育所の所長として勤務し、幸い被害者を一人も出すことなく逃れることができました。その後保育所に戻らず、被災者支援の仕事に従事し退職を迎えました。やる事が山積みの中、一市民として支援を行いたいと考え、職場を離れましたが、子ども達の心に添う支援の少なさや後回しになりがちなことが、子ども達の様子から見てとれ、とても心配でした。そんな時にお声掛けをいただき、県内全域を対象とした「子どもの心の支援」を行う事業に関わらせていただきました。

美田園わかば幼稚園では、今までの経験が少しでもお役に立てるのであればという思いと、震災を含めた新しい街づくりと防災・減災の教訓を地域の人々と考える拠点になれるように進めていきたいと思っております。

私の元気の源である子ども達の心身ともに健康で健やかな成長を願ってやまないのはもちろんのことです。そして子育てが、「親」「園」「地域」の協力のもと、「希望」に向かうものとなるよう努力してまいります。

新しい建物、新しい職員集団、新しい住民集団と「新づくめ」で戸惑うことがたくさんありました。関係者の皆様に支えられて頑張ってこれまでのこと感謝申し上げます。今まで同様、今後ともご指導よろしくお願ひいたします。



「平成26年度養成校との懇談会」報告

総務・給付委員長 吉岡 弘宗

仙台ガーデンパレスにおいて7月7日(月)13時30分から2時間の時間設定で、養成校との懇談会を行いました。県内外17校18名の先生方と、宮私幼の役員の先生方10名の参加で行いました。懇談会開催の前に、就職希望をしている学生達の採用試験等に対する意識調査を行いました。2年前までの調査と違って、今保育所・保育園に就職者が流れている現状で、幼稚園教諭採用試験をどのように考えるべきか?ヒントになる事はないのか?…4つの設問を出しました。

- ①平成25年度の採用・就職状況について
- ②平成25年度の専門職就職者状況について
- ③平成27年度の就職希望について
- ④学生が希望している採用条件について

設問の検討の前に、宮私幼の現状の話題を村山理事長・末屋経営委員長・小野寺研究委員長に各々の立場からの話を頂きました。

①の回答:4年生・短大生・専門学校生共通に、専門職以外の就職者が増えていました。採用希望者的には、思のほか県内希望者が、多数を占めているようでした。

②の回答:校種関係なく統計的には、7割以上が、保育所・保育園就職です。

③の回答:今年も関東圏は早くも実施済のようです。

県内の各私立幼稚園も早目に採用試験実施計画を進めてほしいものです。就職希望的には、1対2の割合で圧倒的に保育所・保育園希望の状況にあります。

⑤の回答:近年大変話題になってくるのが、奨学金返済です。16~18万円希望の初任給ですが、自活するうえでゆとりを考えた数字のようです。さらに、賞与も考えて採用的には正規雇用を求めていくようです。就業時間も週40時間とか、週休とか、年休とか、有給とか、労働契約も確かなものにしていかなければならぬないと思いました。

以上、実態調査からの趣旨です。各々幼稚園で実情を考えて、採用人事を進めていかなければいけません。新規採用することもですが、継続していく職員たちが、就業しやすい環境を作っていくことも今後は大事にしていきたいものです。連合会全体で働き甲斐のある幼稚園現場にして下さい。

平成26年度（第22回）全日私幼連合会 東北地区私立幼稚園設置者・園長研修会（宮城大会）

大会テーマ 「私立幼稚園の明日を考える」

日時：平成26年6月20日(金) 午後1時～／会場：仙台ガーデンパレス

本研修会については、『私幼時報9月号』と宮私ホームページに詳しく掲載されているので、ここでは簡単な概要のみを記述します。

「子ども・子育て支援新制度」が、平成27年4月施行と差し迫ってきていることもあり、東北各地より250名以上が参加し開催されました。

開会行事に引き続き、全日私幼連会長香川敬氏により「私立幼稚園の明日を考える～改正認定こども園について～」と題して基調講演をいただきました。まず、ご自身の身近な体験談から入り、各都道府県の団体長のがんばりで今後私幼が残れるかどうかという厳しい指摘がありました。新制度の中身についても具体的に話され、結論として、これからは地域に根ざし、保育所と差別化して本来の幼児教育を推進することが生き残る道であると示されました。

続いて、研究協議のテーマ
「改正 認定こ

ども園のゆくえ」と題して、コーディネーター佐藤宏郎宮私幼副理事長のもと、文科省初等中等局幼児教育課専門官相原康人氏、全日私幼幼児教育研究機構理事長田中雅道氏、(公社)福島県私幼連理事長関章信氏が鼎談されました。

相原氏からは新制度の公定価格等実務的なお話をありました。田中氏は新しい教育要領について、また都道府県が預かり保育等の国の補助体系を守っていない現状や5歳児の義務教育化について問題提起されました。関氏は新制度について何度も聞いても分からぬが、幼稚園と保育所との違いを挙げられ、保育料の高低差、園内研修等現場での問題点を話されました。

フロアからは、新制度の問題点、国のスケジュール、地方自治体の負担について質疑応答がありました。

最後に関氏より幼稚園の歴史や特色を生かし、慎重に舵を取る必要があると結ばれました。



春の叙勲 瑞宝双光章 鎌田文恵先生 おめでとうございます

期日：平成26年5月14日(水) 午後5時30分～

会場：勝山館

発起人を代表して佐藤宏郎副理事長より、鎌田文恵先生の淡交会の地位、学生時代のレスリングからはじまり、今日までスキー、ゴルフ等大変なマルチぶりを發揮してこられたプロフィールが紹介されました。受章はあくまでも通過点ですし、私立幼稚園が大変な時期ですので、今後ともかじ取りをよろしくお願ひいたしますと結ばれました。続いて村山理事長よりお祝いの言葉として、「先生の幼児教育に対する情熱、様々なご功績に対しての受章と言うことで、後に続く私どもとしても大変うれしい。これまで連合会の重鎮として、父、私、息子と親子三代にわたってお世話になっているので何かお返しをと思っていましたが、なかなか見つからない(笑い)。私立幼稚園が厳しい折、これからも健康に留意され、宮私幼に末永くご指導お願いします」と話されました。



贈呈されました。

これに対して、鎌田先生から受章のご挨拶をいただきました。「お忙しい中、先生方にはこのような会を開いていただき本当にありがとうございました。先ほど佐藤宏郎先生からは身に余るお話をいただき、穴があいたら入りたい心境です。長いこと皆様のご支援をいただきながら宮私幼で活動し、先ほど村山理事長よりお話があったように、村山英記先生、横澤文質先生、佐藤實先生の時代から関係させていただきました。おたまや幼稚園は戦前にもあり、終戦と共に物資不足などで休園状態でしたが、昭和42年に新たに創設しました。昭和60年には紆余曲折を経て茂庭幼稚園を開園し、しばらくして、藤井元市長

のお考えで茂庭幼稚園に保育園を併設することにし、当時学法の保育所は全国で第1号か第2号だったと思



います。その後、平成16年に社福のダーナ保育園を若林に開園しました。そのような歴史の中で、幼稚園のありようも大きく変わっています。今、幼稚園が置かれている立場は非常に難しくなっているが、先生方一丸となり、また理事長先生には投げ出さないでがんばって欲しいとお願いしました。7月には認定こども園になるならないの意思表示をしなければなりません。厳しい時代ですが、なるべく意思統一を図っていかないと、行政は前倒しでできているので、大変なことになると思っております。今の行政は子ども中心でなく親中心であるが、幼稚園は子ども中心の幼児教育を行っているので、先生方には共に知恵を出し合いながら、子どものためにがんばっていただきたい。妻を同伴すると必ずけんかになるが、無事受章を終え、皇居では天皇陛下よりお言葉を頂戴しました」。

ついで東仙台幼稚園の清野幸雄先生の乾杯の音頭で祝宴に入りました。節子夫人、ご子息の智裕氏、その他何人かのゆかりの先生方から文恵先生にまつわるエピソードを話していたとき、吉岡弘宗先生の万歳三唱、おなじみの横澤行夫先生の「今日もお酒が飲めるのは」を参加者全員が大きな輪を作り、合唱しておひらきとなりました。



編集後記

生方にご意見をいただき、宮私幼の広報誌として相応しいものにしていきたいと思っておりますので、ご協力をお願い致します。

村山理事長が巻頭言で書かれたように、「子ども・子育て支援新制度」がいよいよ来年4月から実施され、私立幼稚園は厳しい選択を余儀なくされております。この時代の大きな流れをすべての私立幼稚園が乗り越えていかれることを念願しております。

(鎌田俊昭)

幼な子とともに

くり幼稚園では

保育時間	9時～14時
預かり保育	降園後 14時～18時30分まで 費用／午前：500円 午後：500円
給食	週3回（業者給食3回、弁当2回）
未就園児教室	キッズクラブ（週2回、火・金曜日） 費用／無料
バス送迎	7台

7月10日（木）、JR中田駅西側の閑静な住宅に囲まれたくり幼稚園を訪問取材させていただきました。大震災の前年に新築した幼稚園園舎は、カーブしている道路に沿って建てられており、ゆるやかなアル状の園舎が優しく園庭を包んでいるようです。あいにくの小雨の中、運動着姿の園児たちは園舎内でそれぞれの遊びを楽しんでいました。登園した園児が、きちんとおじぎをして挨拶をしている姿が印象的です。一斉活動では、ブリッジ、マーチング、ピアニカ演奏、英語等の活動を毎日15分ずつ行なっており、毎日の積み重ねを大切にしていることです。3歳児クラスは、壁とマットを使ってブリッジができるようになるとから始まり、5歳児クラスになると、ほとんどの園児はブリッジでの歩行や前回転ができるようになっています。昨年7月に認定こども園になり、別の敷地に建てたくりっこ保育園では、1・2歳児を預かっています。



くりっこ保育園

はいかとのことでした。

＜園長先生からのメッセージ＞

子どもの幸せと成長が健やかに成り立つためには、丈夫な体・たくましく思いやりあふれる心・知能の発達・豊かな情操など、さまざまなものが必要であり、

くり幼稚園

〒981-1105 仙台市太白区西中田6丁目8-20

幼稚園園児数 381名 12クラス

(3歳児100名、4歳児140名、5歳児141名)

保育園園児数 29名 2クラス

(1歳児15名、2歳児14名) ※平成26年5月1日現在



どこかに偏りがあってはいけません。くり幼稚園では、その一つひとつを大切に考え、その幸せのために、真摯に子どもたちを育んでいます。

＜教育目標＞

喜んで集団生活に参加し、知能を高め、健康で伸び伸び遊べる明るい子どもを育てる。

- 心も体も健康で、明るく素直な子ども。
- 誰とでも、仲良く助け合って遊べる子ども。
- 礼儀正しく相手を大切にする子ども。
- なぜだろうと考える子ども。
- 安全な生活のできる子ども。

＜園の特色＞

知育・德育・体育、そしてものごとを表現する力をバランス良く身につけ、健康でたくましく、明るい心身を育むことができるよう、さまざまな活動を実施しています。



○思いやりの心を育てています。

動物飼育、植物栽培の実施。

子どもの感動を呼び起こす読みものに触れる機会を大切にします。

○知能の発達を図っています。

覚えること、頭の働きを良くする活動をバランス良く実施。

個性を発見し、それを伸ばす保育。



○丈夫な体とたくましい心を育てています。

専任講師による体操指導の充実。

○豊かな感性と創造性を育てています。

描く、作るなどの創作活動を楽しみ、作品を実際に使う、飾るなど積極的に活用する。

(取材 小川せつ子・鎌田俊昭)